



アリの巣の中はどうなっているの

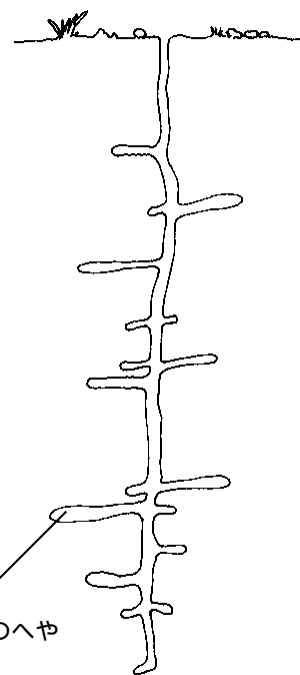
種類によって巣のようすも少しちがう

いちばんよく見かけるクロオオアリの巣は、地表から深さ30センチメートルぐらいのところ、四方八方に、子どもべやとか、食料庫、女王アリのへやなどがくっついて広がったような形で、作られています。1つの巣が、1メートル四方にもなるほどです。

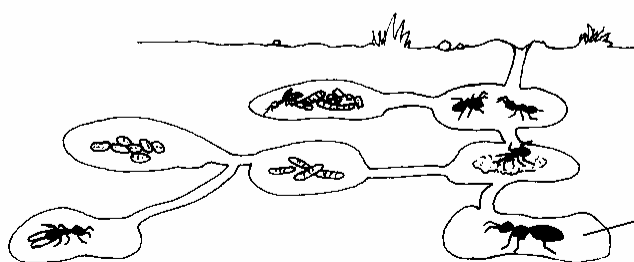
夏から秋ごろ、草の種を集めて巣に運ぶクロナガアリの巣は、ろうかにあたる通り道が、まっすぐに1本、地表から2メートル～5メートルぐらいの深さまでのびていて、横には広がらない形で、へやができています。

巣のつくりを観察するには

アリの巣をほっても、とちゅうでくずれてしまって、なかなか、巣のようすは観察できません。同じ巣のアリを何びきかつかまえてきて、できるだけはばのせまいプラスチックの飼育ケースに土を入れ、巣を作らせたほうが、観察しやすいでしょう。土の下の部分には、黒い布か紙をかぶせておき、うすめたハチミツなどをえさにします。観察するときだけ布をはずすと、飼育ケースの中で、アリの巣のしくみがよく見えます。(監修・中山 周平)



女王アリのへや



クロオオアリの巣

クロナガアリの巣

